

世界遺産サグラダ・ファミリアに10年間設置されていた天使の像

役目を終えた石膏像を 大学に迎えたい！

本学卒業生
外尾悦郎氏制作
「歌う天使たち」

京都市立芸術大学
クラウドファンディング
実施中！

ご支援はこちらへ！



THE KYOTO
#Crowdfunding

<https://the-kyoto.en-jine.com/projects/utau-tenshitachi>

募集期間

令和6年10月11日～令和7年1月8日

目標金額

3,000万円



サグラダ・ファミリア 「歌う天使たち」石膏像 常設展示プロジェクト

彫刻家の外尾悦郎氏（京都市立芸術大学美術学部卒業）から、スペイン・バルセロナのサグラダ・ファミリアに設置されていた「歌う天使たち」石膏像（9体）を寄贈いただきました。外尾氏は、サグラダ・ファミリアの彫刻に長年携わり、主任彫刻家として優れた作品を制作していることで世界的に知られ

ており、2024年9月にはバチカン・ローマ教皇庁からその功績を讃えられ、日本人として初めて「ラツィンガー賞」を授与されることが決定しました。

「歌う天使たち」石膏像は、サグラダ・ファミリアの「生誕の門」に設置された彫刻群の原型として、2000年に石像に置き換わるまでの10年間、多くの訪問者を魅了してきたものです。また、2023年に日本各地の美術館で巡回開催された「ガウディとサグラダ・ファミリア展」において展示されるなど、役目を終えた現在も芸術的・文化的価値を持ち続けています。

本学では、この文化的遺産の保存と共有に努めるため、キャンパス内に恒久的に展示するプロジェクトに取り組みます。多くの方々にご覧いただき、これらの作品の価値や日本とスペインとの文化的な絆を感じていただける展示を目指しますが、「歌う天使たち」石膏像は設置台を含めると約1トンの重量があり、傷み具合の確認や補修等の作業も必要となることから多額の工事費用がかかるため、クラウドファンディングにより広く協力を募ることとしました。

本学卒業生である外尾氏が制作した作品の価値とその背後にある歴史的背景を次世代に伝え、継承するためにも、是非、このプロジェクトへのご支援をお願い申し上げます。



石像の原型である石膏像